

## 平成29年度第1回相楽東部広域連合総合教育会議 会議録

1日 時 平成29年8月31日（木）午後3時30分～5時10分

2場 所 和東町体験交流センター 会議室

3出席者 広域連合長 堀 忠雄  
副広域連合長 手仲 圓容  
副広域連合長 西村 典夫  
教育長 西本 吉生  
教育委員職務代理 石橋 常男  
教育委員 北口 弘子  
教育委員 中井 薫  
教育委員 大西 研介

4傍聴人 なし

### 5議 事

#### (1) 開会

司 会 山本事務局長

#### (2) 広域連合長あいさつ

堀 広域連合長

相楽東部広域連合総合教育会議設置要綱第4条に基づき、広域連合長が会議の議長として以下の議事について進行を行った。

#### (3) 教育課程の改訂に伴う連合教育の今後について（意見交換）

事務局（山本事務局長）から、資料1に基づき教育課程の改訂の概要について説明を行った。

### <主な質疑・意見交換>

#### ○教育長

- ・「主体的・対話的で深い学び」が、今回の改訂のキーワード。先生の板書を生徒がノートに書くという昔の授業ではなく、子ども自身が自分の問題としてかかわっていく、話し合いを深める中で自らが学んでいくというものだが、相楽東部では、既にアクティブラーニングという形で和東中・笠置中で取り組んでいる。学び方が変わったということが一つ。
- ・学習指導要領がこれまでは教師だけのものであったが、地域住民、大人も含めて子供たちが今何をやろうとしているのか、そのために地域社会がどのようなフォローをしてくれないといけないか、「社会に開かれた教育課程」というのが大きな視点となっている。

- ・「伝統や文化に関する教育の充実」は、6年ではお茶、5年では和太鼓など、日本の伝統文化を大事にしていこうという視点。
- ・道徳は、特別教科化になることで教科書採択を進めているところ。毎年、小中教職員の研修を行っており、実践を持ち寄り議論しながら道徳教育の在り方を検討している。山城地域の中でも力をつけてきている、特に若い先生が力をつけてきている。
- ・外国語教育については、英語が小学校で教科化されることに伴い、35時間増加となり70時間となるが、増加分をどのように生み出していくかが課題となっている。
- ・学習指導要領は10年に1回改訂され、2030年の子供の姿を念頭に置いたものが今回の改訂。
- ・今日の会議は教育委員会に力を入れてほしいこと、それに対して環境整備として必要なことなどお互いに交流できればと考えている。

#### ○広域連合長

- ・相楽東部地域における教育の方向性、何に重点を置くかについて、意見交換したい。

#### ○副連合長

- ・教育の内容については教育委員会で十分検討していただくとして、それを行う上で行政において何らかに取り組むべきことがあれば教育委員さんからも出していただきたい。

#### ○副連合長

- ・教育環境を整えていくのが行政の役目
- ・学校活動・授業数の増加に対応するため夏休みの短縮が行われているところもあるが、連合としても考えていく必要があるのではいか。

#### ○教育長

- ・山城地域で本日まで夏休みが続いているのは、東部のみ。学校週5日制により土曜教育をするようになったことから授業数が圧迫されたため、その部分を補うために夏休みを短くしている。相楽東部では今のところは時間数確保が大変厳しいという状況にまでにはなっていないが、こういった課題もある。

#### ○広域連合長

- ・連合ならではの教育の中で、ふるさと教育を充実してほしい。
- ・役場の職員の採用において感じるのは、筆記試験では高い点数をとるが、難しい問題に直面した時に立ち向かわない人が多いということ。暑いときには、汗を流す、家の仕事を手伝うなど豊かではなかった時代のことを思い出し、困難に立ち向かえる根性や道徳心を身に着けさせるようなことも必要ではないかと思う。

#### ○副連合長

- ・主体的で深い学びができていない人が多い。自ら人と議論して学んでいくという力をつけないと社会に出ても知識だけで応用ができない人になってしまう。
- ・後樂園で外国人を相手に英語で観光案内している小学5年生の男の子がテレビで紹介されていた。両親とも英語が得意というわけでもなく、本人が英語に興味をもち勉強したいということで、自ら外国人に話しかけるということを積み重ね、さらに歴史や特産品も勉強したということであり、興味があることに対して自分から進んで勉強していくことが大切。
- ・社会全体も企業もテストの点数だけで判断するのではないという流れになってきている。コミュニケーションがとれない人が多い。自分が主体的に意欲をもって勉強すべき。

#### ○教育委員

- ・新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」、アクティブラーニングについては授業が上手いという先生は、以前からこれを実践していたが、下手な先生は一方通行

の授業しかできないでいたため、うまい先生のやり方を取り入れようとしているもの。決して新しい手法というわけではない。

- ・体育・家庭科などの実技の授業では当たり前であったが、全教科に取り入れようということで、先生は皆必死になっている。合う合わないがあるにもかかわらず、何が何でも取り入れようとしているため、かえって言葉に迷わされ、困ればタブレットなどに頼ってしまう傾向にある。本当のところを見失ったところで新学習指導要領が動き出しているのではと心配している。
- ・対話的というのは、生徒間もあれば教師との間もあるが、その対話が ICT という形に変えて進行しようとしている。この辺りを見失って、一人ひとりにタブレットを導入してほしいとの要望が上がってくるかもしれない。しかし、導入によって授業としての形はできるかもしれないが心を通じ合うという点ではそう簡単なものではない。

#### ○広域連合長

- ・教育においても快適さや便利さを追い求めすぎるのは、自然から学ぶことや人間に備わっている能力を阻害することになっているのではないかと。

#### ○教育委員

- ・自然環境が昔とはかなり違ってきているのも事実。今の気象条件の中では空調も整備してほしい。

#### ○副連合長

- ・小学校での空調整備については、本年度は国からの交付税も減らされている中で、単費で負担するのは難しかった。来年度は過疎地指定を受けたこともあり、過疎債などを活用していきたい。
- ・田山地区でも3世帯同居はほとんどない。子供のしつけ、伝統を伝えていくという面では祖父・祖母が親に代わって孫をしつけるという関係も大切ではないか。

#### ○副連合長

- ・学校、地域、家庭が連携して育てていくことが重要。若い夫婦の家庭に対して、3世帯同居に代わるような何か支援が必要ではないか。

#### ○副連合長

- ・子育て世帯の親に対する勉強会が必要になってきている。

#### ○教育長

- ・幼児教育が大切。3つの保育所の連携、研修を一緒にすることかはないのか。

#### ○副連合長

- ・今のところはない。3町村で人事交流が出来ないかを検討。

#### ○教育長

- ・3町村で保育園の研修をするときに、小学校の低学年の先生も入って交流することは考えられないか。

#### ○広域連合長

- ・保育所も小中学校と同様に連立に出来ないか、保育所と小学校の連携を進めていくことが今後の課題の一つであろう。

#### ○教育委員

- ・英語教育には力を注いで欲しい。

#### ○広域連合長

- ・これまでの日本の英語教育を受けた者は、「読み書き」は出来るが「聞く話す」は苦手。

#### ○教育長

- ・日本の英語教育には問題が多い。小学校では今までは英語活動としてゲーム感覚の内容

だったが教科となることで「話す書く」が入ってくる。年数だけかければ話せるようになるというものではない。英語に関しては小中連携をさらに強化する必要。

- ・ALTを5校で2人を配置。他の地域よりネイティブの言葉に触れる機会は充実している。

#### ○教育委員

- ・英語教育研究会において小学校の授業をどうしていくかについて検討がされている。中学校で教えていた内容を小学校で教えるというのは問題が多く、小学校では「何となく分かる」というレベルに抑えておいて、中学校では今までとおりのレベルという流れになっている。

#### ○連合長

- ・小さいうちから英語に慣れさせるということから、英語で保育という取り組みを行っている。「何となく分かる」、「話せる英語」にしていくためには、例えば「ふるさと教育」の中で、地元を説明することなどを入れてみるのも考えられるのではないかと。

#### ○教育長

- ・来年度の方向性については、「教育の大綱」を整理し、それに基づいて「教育の重点」を策定するので、その際には、行政に対しては教育環境の整備の面で30年度に財政的な協力いただきたいと考えているのでよろしくお願ひしたい。

#### ○教育委員

- ・子供の安全について、Jアラートが通学の際に放送された場合、どこに避難すればよいのかということが現実的な問題となっている。

#### ○連合長

- ・放送は国全体、どこに避難すればよいのか、ということは課題。

### (4) その他

#### ① 平成30年成人式について

##### ○事務局（教育次長）

- ・27年度から3町村持ち回りの会場で開催し、29年で一巡した。教育委員会で検討し、参加者アンケートの意見などをもとに「やまなみホール」で行っていくことで決定していただいた。

##### ○副連合長

- ・30年は「やまなみホール」で行い、それ以降は決まっていないのか。

##### ○事務局（教育次長）

- ・今後は「やまなみホール」に統一していくというもの。

##### ○教育長

- ・和束や笠置からの参加者も、遠くても設備が整っている会場がよいという意見が多く、教育委員会としてもそのような意見を尊重し、これからは「やまなみホール」で行おうと考えている。

#### ② 連合立学校用務員の任用形態（条件）の見直しについて

##### ○事務局（教育次長）

- ・同一労働同一賃金の観点からすると用務員の任用形態・賃金形態がアンバランスになっている。連合設立前からの各町村の取り扱いを継続してきている現状。
- ・和束町の基準（嘱託職員）に統一していくべきではないかと考えている。そうした場合には予算の不足が想定される。

##### ○副連合長

- ・和束町に合わせて嘱託職員にすることで、現状より町村の負担が増えるということか。
- ・30年度から実施するという目標なのか。
- 事務局（教育次長）
  - ・課題として考えているので、直近であれば30年度当初予算になる。
- 教育長
  - ・今回は課題の提起のみということで、参与や正副連合長と協議していきたい
- 副連合長
  - ・30年度からの実施であれば、事前に内部調整しておく必要がある。
- 広域連合長
  - ・今回は、課題の提起ということ。
- 教育長
  - ・金額もそうだが、夏季休なども課題であると考えている。